

まちのさらなる進化にむけて

長崎市の予算

長崎市では、まちづくりの指針となる「長崎市第四次総合計画」に沿ってまちづくりを進めており、平成28年度は、後半5年間を計画期間とする「後期基本計画」のスタートの年です。

人口減少克服や地方創生に向けて、新たな取り組みにもチャレンジしていくことが重要であり、そのためには、市民の皆さんや企業、団体などと、力を合わせて歩みを進める必要があります。

そのような中、平成28年度の予算が決定しました。この予算に基づいて、市はさまざまな取り組みを推進します。

都市経営室 ☎829・1111

財政課 ☎829・1126

第四次総合計画

将来の都市像

個性輝く
世界都市

希望あふれる
人間都市

まちづくりの基本姿勢

つながりと創造で新しい長崎へ

将来の都市像を「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」とし、これを実現するためのまちづくりの基本姿勢を「つながりと創造で新しい長崎へ」としています。

これは、世界がその価値や魅力を認める「長崎らしさ」と、住む人を起点に考える「暮らしやすさ」に重きを置きながら、新しい長崎をみんなで創っていくというものです。

予算はこの計画に基づいて作られています。

※第四次総合計画「後期基本計画」については、自治会などを通じて広報ながさきと一緒に配りしている概要版をご覧ください。

特集

市政

長崎市民

プレゼン

生活情報

健康

子育て

被爆者援護

福祉

講演講座

もよおし

おしらせ

募集

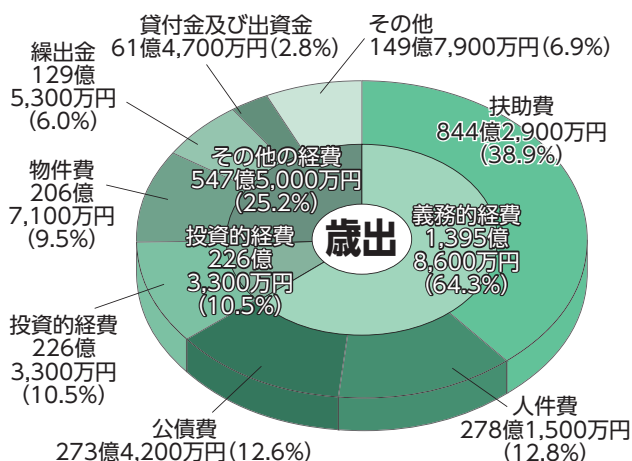
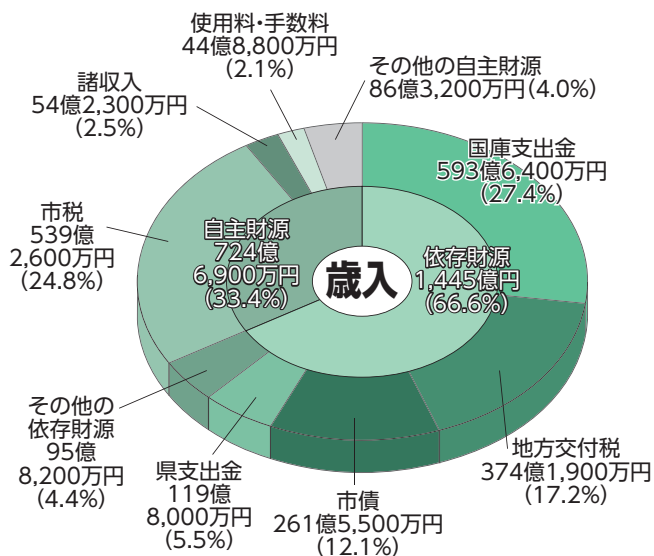
どう使うの？ 長崎市のお金

平成28年度
当初予算

平成28年度の当初予算は、長崎に合った市民の暮らしやすさをつくっていく事業や、次の時代の長崎の基盤づくりなど未来への投資につながる事業、特に緊急の課題である人口減少克服や地方創生を目的とした事業に重点を置いて、予算編成を行いました。

平成28年度当初予算（一般会計）総額 2,169億6,900万円

一般会計…市の基本的な仕事をする予算で、税金などが主な収入になっているもの。



歳入全体のうち、市が自ら確保できる市税などの自主財源は33.4%です。残り66.6%は国や県からの補助金や地方交付税、市債（市の借金）などで賄われます。

また、歳出全体のうち、減らすことが難しく、どうしても支払わなければならない費用である扶助費（福祉関係の経費）や人件費、公債費（借金返済）などが全体の64.3%を占めており、残りのお金でほかの仕事を行わなくてはなりません。

長崎市は、さまざまな収支改善を行っています。今後も人口減少や少子高齢化が続くことから、福祉関係の経費が増加することが見込まれます。そのため、自主財源の確保に努めながら事務の効率化を図り、持続可能な財政運営に取り組めます。

歳出を目的別に見てみると

費目	予算額
民生費	1,046億1,100万円
土木費	233億4,500万円
総務費	166億1,000万円
衛生費	163億7,000万円
教育費	138億2,100万円
公債費	273億4,200万円
消防費等 そのほか	148億7,000万円
合計	2,169億6,900万円

当初予算（一般会計）を、家計簿に置き換えると

収入	金額	支出	金額
①現金収入	167万円	①生活費	322万円
給料(市税)	124万円	食費(人件費)	64万円
パート収入(使用料・手数料など)	33万円	医療費(医療費の助成、生活保護など)	195万円
貯金の取り崩し(基金繰入金)	10万円	借入金(ローン)の返済(市債の元金や利子など)	63万円
②もったり借りたりするお金	333万円	②家の増改築費など(道路や学校の新築改修など)	52万円
親からの仕送り(国や県からのお金)	273万円	③その他の経費	126万円
借入金(ローン)(国や銀行からの借入金)	60万円	光熱水費(光熱水費や委託料など)	48万円
		家具などの修繕費(施設の維持補修など)	4万円
※借入金(市債)残高572万円		子どもへの仕送り(他の会計への繰出金)	30万円
※貯金(基金)残高90万円		貯金(基金への積み立て)	3万円
		その他(補助金負担金など)	41万円
合計(①+②)	500万円	合計(①+②+③)	500万円



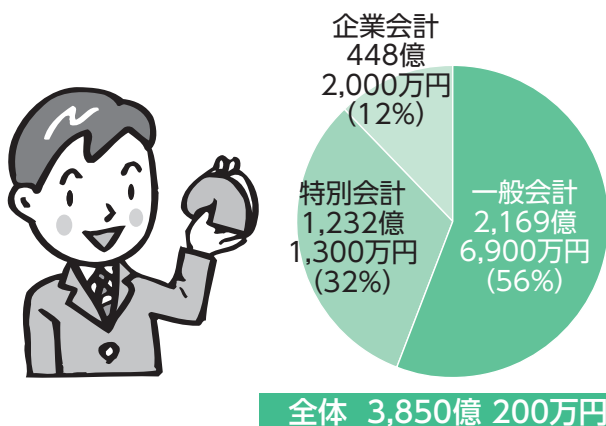
収入については、現金収入(給料+パート収入など)が全体の3分の1と低く、親からの仕送り(地方交付税、国庫支出金など)に大きく頼った状況になっています。

一方、支出については、食費(人件費)などの削減に努めていますが、医療費(医療費の助成、生活保護など)の負担が大きいという状況です。

そういう中で、今、市民の皆さんに必要なことの把握に努めたり、将来の市民の皆さんに必要なことを見据えながら、これまでの取り組みを改めて検証し、既存事業の見直しも併せて行うなど、さまざまなやりくりをして、「市民に分かりやすく説明できる」予算編成となるよう心がけています。

ほかにも会計はあるの？

一般会計のほかに、特定の収入(保険料や使用料など)により賄われる特別会計(12会計)と、その仕事自体に収益があり、支出を収益で賄う企業会計(2会計)があります。一般会計と合わせた市全体の予算額は、次のとおりです。



市の貯金と借金を教えて

市民1人あたりの貯金は

9万円

貯金(基金)の残高見込みは390億2,401万円です。

市民1人あたりの借金は

57万円

借金(市債)の残高見込みは2,483億4,570万円です。

※見込みは平成28年度末、一般会計分。人口は435,525人(平成27年12月31日現在)



2 平和の発信と世界への貢献

重点テーマ

核兵器のない世界の実現に向けて (1,613万円)

被爆の実相を継承する

被爆者の家族や家族以外のかたが「家族・交流証言者」として被爆者の体験などを語ってもらう取り組みを行うとともに、子育て・就労世代向けの出前講座「ぴーすとーくカフェ」を開催します。



昨年度開催された継承に関するフォーラム

平和発信を強化する

伊勢志摩サミットにあわせての原爆展や、アメリカ・ニューヨーク市で平和特派員による平和イベントなどを開催します。

3 地域経済の活力の創造

重点テーマ

水産業の振興 (3億9,642万円)

競争力の強化や販路拡大などを後押しするため、国際的な食品の衛生管理手法であるHACCP(ハサップ)認定水産加工場などの整備に対する助成を行います。



競争力強化や販路拡大を図ります

4 環境との調和

重点テーマ

ごみ分別方法の変更 (1,153万円)

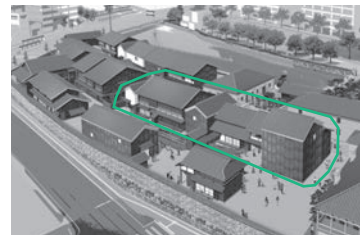
7月から家庭ごみ分別の一部を変更し、現在、「燃やせないごみ」としての「プラスチック製品」「ゴム製品」「革製品」が、「燃やせるごみ」となることに伴い、市民の皆さんへの周知・啓発を行います。

1 個性を活かした交流の拡大

重点テーマ

出島復元が大きな節目に (481万円)

10月の復元建造物6棟のオープンにあたり、完成記念イベントと企画展を開催します。また、「つながるDejima」プロジェクトとして、アメリカ・ボストン大学で開催される東アジア考古学会での研究発表など、市民や産学官での新たなネットワークを地球規模で展開します。



復元建造物6棟イメージ

軍艦島資料館の規模拡充 (550万円)

展示スペースの拡大やバリアフリー化、休憩所・観光案内を備えるため、現在の野母崎総合運動公園管理棟2階から旧野母崎福祉保健センター(野母町)の1階に移設し整備します。

夜景観光の推進(※) (2,401万円)

夜景観光のまちづくりに関する総合的な基本計画を作るほか、長崎の夜景の魅力を国内外に広く発信します。

路面電車がステキに変身♪(※) (1,000万円)

観光客にとって重要な移動手段である路面電車の魅力を高めるため、車両の改修費用などの支援を行います。

6 ともに支え合い、いきいきと暮らせる地域社会の実現

重点テーマ

ねんりんピックの開催

(1億2,263万円)

10月15日から18日にかけて行われる第29回全国健康福祉祭ながさき大会(愛称:ねんりんピック長崎2016)を通じて、多くの高齢者の社会参加、健康増進、生きがいづくりなどを図ります。



住み慣れた地域で

暮らし続けるために (1億2,624万円)

地域の中で、在宅医療や介護サービス、健康づくりを含めた介護予防、見守り・買い物支援などの生活支援、安心して暮らせる住まいを一体的に提供する「長崎版地域包括ケアシステム」の構築に取り組みます。

子育てしやすいまちへ

(7億7,448万円)

赤ちゃんの駅&子育てパパ講座

授乳スペースやおむつ替えスペースを開放する施設を「赤ちゃんの駅」として認定し、その情報をスマートフォンなどで提供するほか、父親の子育てに関わる意識を高めるため「子育てパパ講座」を開催します。

子ども医療費の助成拡大

これまで小学校就学前の子どもを対象としていた医療費の助成について、平成28年4月受診分から、助成対象を小学校6年生まで拡大します。



三世代同居・近居を応援

子育て世代とその親世代とが新たに同居・近居する場合に、住宅のリフォーム費用などを助成します。

ラジオ体操で元気に！ (193万円)

7月21日に「全市一斉ラジオ体操」を実施するなど、ラジオ体操の普及を通じて、地域での交流やコミュニケーションの場を増やし、健康づくりを促進します。



ラジオ体操講習会

5 安全・安心で快適な暮らしの実現

重点テーマ

斜面市街地での歩行者の移動支援

(600万円)

産・学・官・民の連携により開発された歩行者移動支援機器(電動手すり)を、モデル事業として十善寺地区の階段に設置し、高齢者などの移動支援を行います。



電動手すり

稲佐山へのスロープカーの整備

(6,300万円)

稲佐山公園山頂展望台を訪れる観光客などの増加に対応するため、稲佐山中腹駐車場から展望台への新たな交通手段としてスロープカーの整備に取りかかります。

7 創造的で豊かな心の育成

重点テーマ

長崎ならではの学びを充実

(1,710万円)

市内の小学生が、「日吉自然の家」で地域のかたとともに農業・水産業などを体験します。また、世界遺産など「長崎の宝」を学び、その価値を発信します。

ラグビーワールドカップに向けて

(2,848万円)

長崎で事前キャンプを予定しているスコットランドとの間で、子どもたちの交流事業などを行います。

8 多様な主体による地域経営

重点テーマ

滑石支所の整備

(235万円)

「地域のまちづくり支援」の機能を持たせるとともに窓口業務を充実させるため、10月から滑石事務所を廃止し、滑石支所を新たに設置します。